

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



今冬は、東京でも予想外の大雪が降り積もり、慣れない雪掻きに大わらわ。北国の方達の日々のご苦勞が身に沁みました。

いよいよ春 3 月。

今まで冬籠りをしていた生き物たちも、暖かさにつられ、一斉に土の中から顔をのぞかせるような季節になりました。明るい春の到来に心がはずみます。



さて、3 月は卒業式・卒園式や送別会など別れの時期ですね。親しい友人や同僚との別れはとても寂しいものですが、反面



新しいめぐりあいもきっとあるはず。

素敵な出会いがたくさんありますように！

季節の変わり目は、つい体調を崩しがちです。

くれぐれもご自愛ください。

快適に生活するために！ (13)

住宅は、他の商品と異なり、住まい方、手入れの仕方で寿命が長くも短くもなるものです。

引き続いて、いつまでも快適に暮らすための参考となるポイントについてお伝えしていきます。

今回は、住まいの室内環境についてです。

【結露】

戸外の温度が低くなると、窓ガラスやアルミサッシの内側や、壁の内側部分の表面温度が低い部分に結露することが多くなります。

結露を放置すると、雨漏りと同じように居室や押し入れの壁の内側にカビが生えたり、家具や衣類などにも悪影響を及ぼします。

カビは、健康にも係わりますので注意が必要です。

【換気】

室内の湿気が多くなると結露の原因になりますので、一時的に窓を開けるなどして時々新鮮な空気と入れ替えましょう。



洗濯物を室内に干している時、煙突の無い石油ストーブなどを使用する際は特に注意が必要です。

石油ストーブの場合、使用する灯油と同量の水蒸気が発生します。



【暖房温度】

結露は、外気と室内との温度差と湿気の関係で生じ、ガラス面が同じ温度の場合は、室温や湿度が低いほど生じにくく、室温や湿度が高くなるほど生じやすくなります。

結露を防ぐためには、湿度を低くするよう換気を心掛けると共に、室内温度を必要以上に高くしないことが大切です。

寒いとついつい暖房器具に頼り、室内の適温を忘れがちですが、バランスのとれた温度と湿度を保つようにしましょう。

次号に続く

「梅に鶯 (ウグイス)」

梅の花は、寒い冬を乗り越えて、春一番に咲き始め、又、ウグイスは、春の訪れを告げる春告げ鳥ともいわれ共に親しまれてきました。

「梅にウグイス」は、取り合わせの良い二つのもの、美しく調和するものの例えとして使われます。

しかし、実際によく梅の木にやってくる鳥は、メジロだそうです。

「梅にウグイス」は、春を待ちわびる日本人の理想のイメージから生まれた取り合わせなのですね。

今冬は、厳しい寒さが長く続き、そのせいか梅の開花が例年より遅れ気味で気掛かりでしたが、ここにきて咲きそろい、ふくよかな甘い香りが春の訪れを知らせてくれます。

桜の花のような華やかさはありませんが、静かに咲く梅の姿にも惹かれます。

梅と桜。

皆さんは、どちらがお好きでしょうか？





女性教師と子供の出会い

ある新米の先生の体験談をご紹介します。

5年生の担任として就任した時、服装がだらしなく、どうしても好きになれない一人の少年がいました。

先生は、生徒記録についつい少年の悪いところばかりを記入するようになっていました。

ある時、その少年についての1年生からの記録が目にとまりました。

「朗らかで、友達好きで、誰にでも親切で、勉強もよくできて、将来が楽しみ」とあります。先生は???・・・これは何かの間違いだ。他の生徒の記録に違いない、そう思いました。

2年生になると、「母親が病気で、世話をしなければならず、時々遅刻をする」

3年生では、「母親の病気が悪くなり看病に疲れているのか、時々、教室で居眠りをする」そして後半の記録には、「母親が死亡。希望を失い悲しんでいる」

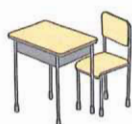
4年生になると、「父親は生きる意欲を失って、アルコール依存症になり、子どもに暴力を振るう」とありました。

先生の胸に痛みが走りました。ダメと決めつけていた子が、今深い悲しみの中を生き抜いている……。先生にとって、まさに目を開かされた瞬間でした。

そしてある日の放課後、少年に声を掛けました。

「先生は夕方まで教室で仕事をするから、君も勉強していかない？ わからないところは教えてあげるから」

少年は、輝くような瞳と笑顔で「はい!」と答えました。



それから毎日、少年は教室の自分の机で予習・復習を熱心に続けました。

そして少年は段々と自信を持ち始めたのです。

6年生では、残念ながら少年の担任から離れてしまいましたが、卒業の時、その彼から1枚のカードが届きました。

「先生は僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で一番素晴らしい先生でした」

それから6年後、またカードが届きました。

「明日は高校の卒業式です。僕は5年生の時に先生に担当してもらってとても幸せでした。

おかげで奨学金をもらい、医学部にも進学することができました」



10年を経て、またカードが届きました。

「あのままダメになってしまいそうな僕を、救ってくださった先生を、神様のように感じました。大人になり、患者さんの痛みがわかる医者になれた僕にとって最高の先生は、5年生の時に担任してくださった先生です」

そして更に1年後、届いたカードは「母の席に座ってください」、と書き添えられた結婚式の招待状でした。

素敵な話ですね。

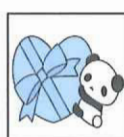
「編集後記」

春まだ浅く、寒さの残る今日この頃ですが、如何お過ごしでしょうか？ 早いもので3月も半ばを過ぎてしまいました。

3月と聞き、忘れられないのは東日本大震災のことです。日本のみならず世界中を震撼させたあの時を思い出すと、今でも恐怖心がよみがえり、同時に犠牲になられた多くの方達やご家族、未だに完結しない復興に胸が痛みます。

これから開花する桜の美しさに、少しでも心が癒されることを願います。どうぞお身体を大切にお過ごし下さい！！

今月もお読みいただき有難うございました。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせ下さい。

編集責任者 渡辺 田鶴子